

令和 7 年度

入学試験問題

〔国 語〕

注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
表紙の「教科」を確認しなさい。
- 2 この問題冊子は29ページあります。問題は□～四まであります。
印刷が不鮮明なところ、ページの落丁や乱丁・汚れに気づいた場合は手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 3 解答はすべて、解答用紙の指定された解答欄に記入しなさい。
- 4 解答用紙には、解答欄以外に受験番号欄と＊マークを付けた欄があります。
 - ① 受験番号欄には、受験番号を忘れずに記入しなさい。
 - ② ＊マークの欄は、採点の時に使用する得点記入欄なので、何も記入しないようにしなさい。
- 5 その他、不明な点があれば、手を挙げて監督者に質問しなさい。

□
次の①～⑤の傍線部ア～エには、漢字の表記や言葉の意味・用法に間違いを含むものがあります。それぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。

① 政府は、ア 大くの人々がイ 確かに税をウ 納めるよう エ 図らねばならない。

② テレビのア 企画のためのイ 街頭アンケートに、ウ 率直にエ 解答する。

③ 卒業 ア 証書には、「本校の全 イ 過程をウ 修了したことを証する」と エ 記載されている。

④ ア 重大な失敗によって失ったイ 名誉を返上して、ウ 是が非でもエ 雪辱を果たしたい。

⑤ 彼は、ア 弱冠三八歳でありながら、イ 画期的な発明品を生み出すなど、ウ 未来を担う人材としてエ 期待をかけられている。

【文章1】は、平山亮『迫りくる「息子介護」の時代——二八人の現場から』について上野千鶴子が解説したものです。これを読んで、後の問いに答えなさい。

【文章1】

息子介護があばくジェンダー非対称

わずか二八例というのに、本書が「介護する息子」について教えてくれることは、広く、深い。うんうん、あるある、へえーという知見に充ち満ちている。そして思い込みや偏見を破ってくれる。そのうえで、なるほどねえ、という普遍的な理解に導いてくれるのは、彼の分析の緻密さと繊細さによるものだ。

育児とちがつて介護には、「主たる家族介護者」の周辺をとりまく①複数の介護関係者がいる。

たとえば、妻のいる息子が介護者になった場合。「女房はどうしてるんだ!？」と周囲から※1 譴責の声^{けんせき}が飛んできそうなところに、平山さんは、妻の後方支援なくしては夫の「息子介護」も成り立たないのに、その貢献が期待より低いことを怨んだり、当然視して評価しなかったり、妻の葛藤^{かつとう}を理解しなかったり……という事例を挙げる。

妻の方は妻で、「介護しないこと」への自責の念から自由になれなかったり、自分の貢献を過小評価したりする。それにつけこんで「オレがひとりで行っているんだ」と「大きな顔」をする息子介護者もいる。そのキビを、平山さんはまるで夫婦のあいだに立ち入って聞いてきたみたいに詳細に分析する。

反対に妻が、自分の親の「娘介護」を背負ったら、この夫たちはどうふるまうだろうか？ 想像できるだけに、先が思いやられる。

たとえば、本人以外にきょうだいがいる場合。平山さんは、それも男きょうだいがいる場合と女きょうだいがいる場合とに分けて考える。当然だろう。そして女きょうだいがいる場合のほうが、息子介護はもつとやりにくい、という思いがけない発見をもたらす。なぜなら女きょうだいは、自分の介護に評価を下すだけでなく、勝手にやってきては介入するからだ。

X

姉妹がい

②たとえば、息子介護だから手抜きでも言い訳できる、という発見。これを平山さんは「ミニママケア」と呼ぶ。本人の自立を促す、残存能力を生かす、できるだけ手を出さない見守りケアだという見方もある。それから見れば、世話の焼きすぎのような姉妹や妻のケアはかえって妨げになる。だから介入を遠ざける結果にもなる。男の介護については、笹谷春美さんの研究で、「夫に

よる妻の介護」の特徴が「介護者管理型介護」であることがすでに指摘されている。過剰な介護にせよ、過少な介護にせよ、いずれも介護者主導型介護であり、きょうだいや妻といえども第三者の介入によって自律を侵^{おか}されたくない、というのが「男の介護」なのかもしれない。

それから、息子介護者と職場。友人関係。地域のネットワーク。息子だって働かなければ食べていけない。親の介護も続けられない。だが、ここでも息子介護者と娘介護者とのあいだには、大きな非対称がある。

息子の場合には、周囲から「ちゃんとおしごととして、お嫁さんもらって（その嫁に介護をまかせて、つてことか?）、親を安心させてあげなくちゃ」というのが期待される「親 コウコウ」となるのに対し、娘介護者の場合には、「しごとを辞めて親の介護に専念しなさい」という期待がのしかかる。その背後には「あなたのやつてるような^③ しごとなんて誰にでもできる程度のしごとなんだから」という侮^{そと}りが無いだろうか。同じことを息子になら言わないだろう。

家で「女のしごと」をやっている息子介護者は、あたかもそれが無いかのようにふるまう。だから、職場に「息子介護者は『いない』と言う平山さんの指摘は、痛い。思えば介護だけでなく、育児についても、男たちは「あたかも家庭責任がないかのように」（これを like a single という）ふるまってきたのではなかったか？ 家を一步出れば涼しい顔をして、なんの負担もない「ひとりもの」のようにふるまってきたことが、職場から育児も介護も「見えなく」させてきたのじゃなかったか？

「自分で介護すると決めたたん、介護だけに専念するしかない状況に陥るのだとしたら、これもまた別の意味で、介護をする自由が奪われている状況だといえる」という平山さんの指摘は鋭いし、このことは「介護」を「育児」に置き換えても、一〇〇パーセント成り立つだろう。

④ 同じことは、友人関係にもいえる。年齢の若い息子介護者は、同世代の男友だちが理解も共感もしてくれないところに、おたのしみを共有する「ツレダチ（英語では companionship というそうだが）」に自分だけグチをこぼして水をさすようなことはしたくないし、世代が上の場合も介護経験を共有した同性の友人たちとも、「自分だけ泣き言をいうなんて、いさぎよくない」と感じてやはり介護経験は語れない、のだそう。同性同世代の友人たちこそ、息子介護者が「もつとも避けたい相手」という平山さんの「発見」は、「男どうしの絆^{きずな}」の性質についてよく教えてくれる。

かつて「友情」は男の独占物と思われてきたが、弱みも吐けず、助け合いもできない「男の友情」って、いったい、なんなんだ？ そう思えば、「女友だち」のほうが、ずっと頼りになる。そのとおり、息子介護者にとっては、同性の男友だちより、異性の女友だちのほうがホンネやグチをこぼしやすいそうだ。これはわたしが『男おひとりさま道』で指摘した観察と重なり合う。

「男どうしの絆」は、平山さんによれば「馴れ合い、張り合い」の関係。困ったときの助けにはならない。それなら、同性よりは異性のほうが弱みを見せられる。

それが事実なら、女友だちのいない息子介護者は、どうしたらいいのだろうか？　こういう男女関係は、お叱りモードのママに、カウンターでⅡクダを巻いてグチをこぼすオジサン、を連想させるが、女のほうはとくに、こんな男のケアはカネでももらわなくちゃやってらんないわよ、と思っているはずなのだ。

こういう「男どうしの絆」は、介護する相手が父親か母親かにも関わってくる。父親ならばヨコ並びの関係。世話されて当然と思っている父親を世話するのも、父親から感謝のことは聞かれないのも、「男ってそういうもん」で納得できる。

反対に「ケアする性」である母親と立場が逆転することは、息子にも母親にも双方にとって困惑として経験される。母親の変化に息子が気がつくのは遅いんじゃないか、という平山さんの指摘は、おそろしい。それは男性が一般に周囲の人の気分や感情の変化に敏感でない、というコミュニケーション力の不足以上に、自分にとって「不都合な真実」を否認したい、というとしても「男らしい」心理を思わせるからだ。

息子の母親介護は、父親のそれより困難かもしれない、という本書の指摘は、異性介護の困難以上に、「ケアする性」としての⑤ジェンダー非対称に関わっている。

そして地域。ここでも父親と母親のちがいが明らかに。地域に根をはっているのは女性。母親が要介護になれば、母親の同性の友人・知人たちが、息子介護を支援する資源になる。妻が夫の介護者になっても、同じ支援が同性の友人・知人たちのネットワークから得られる。わたしが「女縁」と呼んだものだ。

だが、その資源が活用できるのも、母親が生きているあいだ限定。

母親に属するネットワークだから、母親が亡くなれば潮が引くように去ってゆく。そうなれば、父親を介護する息子が、地域ではもともと孤立することになるだろう、という平山さんの予測は当たっている。父親は地域でネットワークをつくってこなかったからである。

同じことは、しごと一途で働きつづけてきた女性の老後についても、いえるだろうか？

わたしの調査では、ほとんどの働く女性は、職場と地域とに両脚をかけていて、けっして男のように、職場と縁が切れたと同時にすべての人間関係を失うことにはならないようだけれど。だが、これからの働く女性の老後がどうなるかは、未知数だ。

男という困難

そう、家族介護とひと言でいっても、誰が誰を介護するかで、状況はおそろしく違ってくる。平山さんの詳細な調査を通じてわたしたちは、息子介護の実態にようやくすこしだけ、近づくことができた。

だが、読者のなかには、これでもこの本に登場する息子介護者たちは恵まれている、と思う人たちもいるだろう。だって何より、しごとがあつて収入があつて、家があつて、そのうえ妻やきょうだいたちがいて……対象者を医療機関から紹介されたというところ、公的支援にもつながっている人たちだ。追い詰められてもないし、どうやら虐待をしている様子もない。そもそも調査の対象になることを引き受けるってこと自体が、ゆとりの証明なんじゃないか。これではほんとうに深刻な「困難事例」はわからない、と。

Y、平山さんがいうとおり、本書を通じて、わたしたちは「どういう条件のもとに息子介護者は虐待者になるのか」をいくらかなりとも知ることができよう。それを知ることが、逆に「どういう条件がそろえば、息子介護者は虐待をせずにするのか」を知ることにもつながる。

そして何より、本書が示すのは、「男という困難」についてだ。「困っていない」から「助けを求めない」、それどころか外からの「介入を拒否したい」息子たちは、ほんとうに「困っていない」のだろうか？

『困っていない』僕らは、本当に困らなくてよいのか？」「どうしたら僕らは、困るべきときに困ることができるのか？」困っているときに困ったと言えない、助けてほしいときに助けてと言えない、弱みを見せられない男の「弱さ」を、「強さ」とかんちがいするのはやめたほうがよいのではないだろうか。男には弱さを認めることのできない「弱さ」がある……この問いに答えるのは、男たちの永遠の課題だろう。

それに平山さんがさりげなくつけ加える次の一文、「たとえば息子が困っていないくても、介護されている親の方は、困っている場合もあるからだ」……は、^cシュウイツだ。

介護は誰のためにある？ 介護する側のためではなく、介護される側のためにある。介護される側が困る介護、介護する側にとって自己満足で、はた迷惑な介護が、「家族介護」の ^dビメイのもとにおこなわれては困る。

考えてみれば、これって ^e男の人たちが、職場や家庭でやってきたふるまいと、とっても似ていないだろうか？ 介護というコミュニケーションにかぎらず、あらゆるコミュニケーションにおいて、相手の感情とニーズに応えることは「基本のき」、なのだが、男性はそれが苦手なのではないだろうか？

息子介護が、男たちが「男であること」について学び、変わっていくための経験の場になればよい、と思う。なにより息子介護者とは、父子家庭の父親たちと同じように、ケアを必要とする親に向きあい、親を施設にも病院にも送らず、ふんばって在宅で支えようとしている愛情のある息子たちなのだから。すべての息子たちから、その親を介護するという絶好の機会を奪ってはならない、とさえ言いたい思いだ。

□ Z □、著者が予言するとおり、「息子介護者はこれから確実に増えていく」からだけでなく、すべての男たちは、誰かの息子なのだから。

（上野千鶴子 『上野千鶴子がもつと文学を社会学する』 より）

〈注釈〉

※1 譴責 …… 不正や過失を厳しく責めること。

問1 波線部 a ～ d のカタカナ部分と同じ漢字を含むものはどれですか。最も適当なものをそれぞれ後のア ～ エから選んで、記号で答えなさい。

a キビ

ア 挽回の機会を得る。

ウ 期間内には終わらせる。

イ 夕方には帰路につく。

エ 奇跡的な逆転劇。

b コウコウ

ア 深い考察を加える。

ウ 実験は成功した。

イ 兵隊が行進する。

エ 選挙は公平であるべきだ。

c シュウイツ

ア 実験を終える。

ウ グッズを集める。

イ 学問を修める。

エ 秀でた成績を残す。

d ビメイ

ア 災害に備える。

ウ 美しい絵に感動する。

イ 虎の尾を踏む。

エ 花の香りが微かに残る。

問2 二重傍線部Ⅰ・Ⅱの意味として最も適当なものを、後のア～エからそれぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。

Ⅰ 思いやられる

ア 他人に対して親切に接する

イ 過去の出来事を懐かしく思い出す

ウ 自分の意見や考えを強く主張する

エ 将来のことを考えて心配になる

Ⅱ クダを巻いて

ア 長い時間をかけて丁寧に説明して

イ 酔って文句などを繰り返して言う

ウ 誰かと楽しい話をして盛り上がる

エ 計画を立てて物事を進めて

問3

X

Y

Z

に入る語として最も適当なものを次の中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。

ア とはいえ

イ そのうえ

ウ だから

エ たとえば

オ なぜなら

カ あるいは

問4 傍線部①「複数の介護関係者」とありますが、それはどのようなものですか。次の中から最も適当なものを選んで、記号で答えなさい。

- ア 介護する人の配偶者や兄弟、友人、あるいは職場、地域などで関係のある人々のこと。
- イ 介護する人の親族や友人、近隣の住人などではなく、介護を専門としている業者のこと。
- ウ 介護する人のなかで、育児には関わることなく、介護だけに専念している人のこと。
- エ 介護する人のうち、介護における自分の貢献を過度に大きく評価しようとする人のこと。

問5 傍線部②「たとえば」とありますが、これに続く段落はどのようなことを説明するための例ですか。次の中から最も適当なものを選んで、記号で答えなさい。

- ア 平山さんの調査に基づく、介護における姉妹という存在の重要性。
- イ 平山さんが述べている、介護における男性の手抜き具合のひどさ。
- ウ 平山さんの調査結果を否定するような、現実の息子介護の様子。
- エ 平山さんによる、息子介護の実態についての緻密な分析の結果。

問6 傍線部③「しごと」とありますが、ここではどのような「しごと」を指しますか。次の中から最も適当なものを選んで、記号で答えなさい。

- ア 女性が家族のために行っている家事全般のこと。
- イ 女性が介護のために行うボランティア活動のこと。
- ウ 女性が社会貢献のために地域で行う奉仕活動のこと。
- エ 女性が、収入を得るために職場で行う業務のこと。

問7

傍線部④「同じことは、友人関係にもいえる」とありますが、それはどういうことですか。次の中から最も適当なものを選んで、記号で答えなさい。

ア 男性の介護者は、職場の同僚や同世代の友人たちと介護の楽しさを分かち合おうとするが、なかなか共感を得ることができないということ。

イ 男性の介護者は、友人関係が介護の負担軽減の助けになると期待しているが、実際は、それぞれ生活に手一杯でそうはならないということ。

ウ 男性の介護者は、同性の友人から介護に関するアドバイスを積極的に受けているが、実際の介護には役立たないと感じているということ。

エ 男性の介護者は、介護に負担を感じないわけではないが、それを自分が担っていると職場や同性の友人といった周囲に明らかにしたくないということ。

問8

傍線部⑤「ジェンダー非対称」とありますが、それはどういうことですか。次の中から最も適当なものを選んで、記号で答えなさい。

ア 家庭内での介護について、誰がそれを引き受けるべきかで、男女間の意識に差があるということ。

イ 多くの男性が、介護することには抵抗がないものの、される側になることは気恥ずかしく思うということ。

ウ 女性はただ介護する側の立場にだけあるべきで、介護される側になるべきではないと考えられていること。

エ 男性は地域社会との繋がりを持っているが、女性は家庭内の人間関係しか築けないと見なされていること。

問9

傍線部⑥「男の人たちが、職場や家庭でやってきたふるまい」とありますが、それはどのようなものですか。次の中から最も適当なものを選んで、記号で答えなさい。

ア コミュニケーションにおいて、相手の気持ちや要求を考え、それに応えようとするのではなく、自分の気持ちや都合を相手に押しつけるというふるまい。

イ コミュニケーションで、他人の気持ちや都合ばかり考えて、自分の気持ちや考えを主張することができず、かえって問題を大きくしてしまうというふるまい。

ウ 対人関係において、自分と相手の立場の差で接し方を考え、上だと見た相手にはへりくだる一方、下だと見た相手には必要以上に強く当たるというふるまい。

エ 対人関係において、相手の気持ちを考えるという基本にばかりとらわれて、その場の状況など、臨機応変な対応が求められる場面で混乱するというふるまい。

問10 次の【文章2】は、角田光代「光の川」の一節です。輝男は、認知症を患った母の介護のために仕事を辞め、生活保護を申請しています。ここは、それに続く場面で、その申請が通らなかつたことを役所の窓口で告げられるところです。これを読み、【文章1】との関係についての説明としてふさわしいものを、A～Eの中から二つ選ぶとき、その組み合わせはどれが最も適当ですか。後のア～カから一つ選んで、記号で答えなさい。

【文章2】

「あなた、働けるじゃない」と、口元に笑みを浮かべて言うのである。どうやら彼はくちびるをゆがめることで、同情心や慈愛を表現しているらしかったが、輝男には、馬鹿にされているようにしか思えなかつた。

「だからですね、あの、母の場合は昼夜が逆転してまして、私が働くことが無理なんです。ケースワーカーの方にそのように説明したはずなんですがね。給付金のこと理由らしいけど、それだつてすぐに切れるわけですよ」

「でもねえ」系の男はまっすぐ輝男を見つめて言う。口元がにやけているのに目が笑っていないぶん不気味だった。「こちらは何も意地悪をしているんじゃないんでね、きちんとした規定というものがあつて、それにあなたは合わないという決定が下つたつまあ、そういうわけなんです。保護というのは、あくまで働く能力のない人のためのものであつて、働けるのに働かなくてもいいようにできる制度じゃないんです」

「だから何度も言ってますけども」

「多いんですよ、今。おわかりだと思えますけど、高齢化社会ですからね。おたくだけじゃないんです。それでもみなさん、なんとかやっているわけでしょう。しかもおかあさん、要介護2でしょう。まだいいほうじゃないんですか」

「要介護認定は変更を申し入れました。調査員がきた日はたまたま調子がよかつたこともあつて、変更を認められなかつた、それだけなんです」

「でもね、正直、あなたよりたいへんな方たくさんいますよ。八十歳の妻を面倒見ている八十五歳の夫もいますしね、六十歳の娘さんが内職しながら親御さんの面倒見たりするんですよ。それにあなた、おねえさんがいらつしやるでしょう。あなたはぜひぶんと恵まれたほうですよ」

男は言い、ずっと目線をそらして、カウンターの内側で何か書類を見はじめた。話は終わり、と男の全身が語っている。言い返す言葉が見あたらず、また何か言葉が思い浮かんだとしても、なんとしても保護申請は受け入れられないのだろうと輝男は理解

した。力が一気に抜けていくように感じられた。無言でその場を立ち去ろうとすると、
「まだお若いんだし、がんばってくださいね！」

（角田光代 『三面記事小説』 より）

A 【文章1】は、男性に「弱さ」を見せる「強さ」を持つように勧めるが、実際にその「弱さ」を見せると、社会にはまだそれを受け入れる風潮がないことが【文章2】の「輝男」に対する役所の「男」の対応に表れている。

B 【文章1】は、平山の主張を踏まえて、男性が母親の介護をするのは困難であると述べているが、その困難を言い訳にしてケアから逃れようとする者もいるということが【文章2】の「輝男」を通して示されている。

C 【文章1】は、男性による介護について、周囲や社会への援助を求めるのが難しいと述べているが、実際は、思いやりをもって手を差しのべる人もいると言うことが、【文章2】で「輝男」の応対をした役所の「男」の態度に表れている。

D 【文章1】が「息子介護」について、男が変わるための学びの場になるという点で肯定的に見ているとおり、【文章2】で母親を介護する「輝男」は、その状況を自らの生き方や価値観を見直すよい機会と捉えている。

E 【文章1】で紹介されている「介護の自由が奪われている」状態は、【文章2】で「輝男」が介護のために仕事を辞めねばならなくなったという状況でも表現されている。

（組み合わせの候補）

ア	A・B	イ	C・D	ウ	A・E
エ	B・D	オ	C・E	カ	A・D

Ⅲ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

勉強好きの吾一は、非常に貧しかったため悲願だった進学もかなわず、母の死後故郷を離れた。東京の下宿屋で女主人（おかみ）とその娘にこき使われながら、ただ働き同然で住ませてもらっている。下宿をしている学生の中に、「ポンチ絵」（社会や人を遠回しに批判する風刺画）を描く黒田という青年がいた。

「どうだ、一つ、おまえのことをかいてやろうか。」

その日の午後、黒田は吾一をつかまえて言った。

「やつぱり、ポンチですか。」

吾一はあたまの上に手をやって、あまりありがたくない顔をした。

「ポンチですか、ってやつがあるか。どれどれ、少しじっとしていてごらん。」

黒田は、しばらく吾一の顔を見つめていたが、やがて紙の上に、ちょこちょこ鉛筆を走らせた。

何をかくのかしら、と見ているうちに、やがて、※¹起きあがり小ぼうしの、ちいさなダルマが一つ、地べたに引っくり返っているところができあがった。ダルマは無論、吾一の顔になっていた。

「どうだ。」

黒田はにこにこしながら、それを吾一に突きつけた。マンガをかく人はおもしろいかもしれないが、かかれた当人は、そんなにおもしろいものではない。

「おまえにやるから、それ、持って行ってもいいよ。」

向こうでは、A 大事なものでくれるようなことを言っているが、吾一は自分のポンチ絵なんかもらったって、しかたがないと思っていた。

「ははは。わからないんだな、おまえには。——それじゃ、しようがない。声を入れておいてやるかな。」

黒田は筆をとって、絵の上のあいたところに、もじを書いた。

ダルマさん、

ダルマさん、

お足をお出し。

自分のお足で

歩いてごらん。

「どうだ。今度はいくらかわかったらう。」

そう言われても、吾一には **B** わからなかった。「ダルマさん、ダルマさん」は、そこらでだれでも言っていることだし、「自分のお足で」も、**C** むずかしいことではない。だが、こんな歌みたいなものを書かれても、なんのことか通じなかった。

「なんだ。まあだわからないのか。あいにく、もう書くところがなくっちゃったから、これでやめておくが、まあ、一二三日、おまえはこのダルマさんと、にらめっこをするんだな。」

ダルマさんに、こうもつたいをつけられては、吾一はどうももらわないわけにはいかなかった。ちゃかされたうえに、お礼を言ったりするのは、少々 ^{※2} まし、やくに合わないと思っただが、しかたがなしに、彼は「ありがとうございます。」と、あたまをさげた。

「ですが、黒田さんは、どうしてこういう絵ばかりかいて、ほんとうの絵をかかないんです。」

吾一は自分のマンガをひざの上にのせたまま、もつともらしい顔をして言った。

「ほんとうの絵か。——はははは、ほんとうの絵はまいったな。」

「だって、たいていの絵かきさんは、富士山や、^{※3} 加藤清正をかくじゃありませんか。ああいうのをかいたほうが……」

「はははは。金になるって言うのかい。——どうも下宿代を払わないと、おまえにまでバカにされるな。」

「そうじゃないんですけれど……」

「あんな、小僧、世の中には、声を出す絵と、出さない絵とあるんだ。普通には、『無声の詩』なんて言って、絵は声を出さないものとされているが、今の絵を見ろ。 **D** 絵の具をなすりつけているだけで、詩なんかどこにもありやしない。『無声の詩』じゃなくって、『無声の無』だ。おれはそれが ^I しゃくにさわるから、絵の中から声を出させようと思っっているのだ。The

very stones cry out! 今の世の中は、^{※4} 石なお叫ばん。」という時代じゃないか。絵だって、声を出さずにいられるもんかい。」

「……………」

「^①今の日本画家は、みんなかぜをひいていやがって、声の出るやつは、ひとりもないんだ。声を出さないことが、立派な絵かきだと思っているんだから、あきれ返るよ。」

「……………」

「『無声の詩』はいいが、無声にばかり力を入れやがって、詩なんてものは、そっくり、どこかへ置き忘れてきちゃっているんだ。詩とはなんだ。一つの声じゃないか。——しかしな、おれには詩なんて、やさしい、味のある声は出せねえから、おれはしゃがれ声を張りあげてどなるんだ。すき通ったきれいな声は出せねえから、あてっこすりを言うんだ。皮肉を言うんだ。そのどら声が、あてっこすりが、それがすなわち、ポンチつてものさ。」

「……………」

「はははは。小僧、^{II}目を白くろさせているな、可愛いそうに。——だが、まあ、聞け。ポンチつてものは、時代の声だ。だれがなんと言ったって、ほえずにはいられねえものなんだ。かぜをひいた犬みたいに、黙っているのはちがうんだ。金もちや書画やの前で、しつぽを振っている手あいとはちがうんだぜ。下宿やの払いはどこおらせているが、おかみにだつて、だれにだつて、かみつくんた。いや、おかみなんて、ちつぽけなものが目あてじゃない。時代の声をほえるんだ。おれたちは番犬じゃねえ。飼いだじゃねえ。時代の主人として、ほえようって言うんだ。」

「時代の主人」ってことばが、吾一の胸にぴいんときた。はっきりした意味はわからないが、年中、こき使われてばかりいる彼は、なんとかして、一度「主人」というものになってみたいと、^{もういっ}猛烈に思った。

「ポンチつて、おもしろいんですね。」

「はははは。おもしろいんですねか。まあ、おもしろいんですねでもいいだろう。——」

「わたしはポンチつて、ただ、いたずらがきをするものだとばかり思っていました。」

吾一はさつきかいてもらった起きあがり小ぼうしの絵を、もう一度、取りあげて見かえした。^②さかなの骨のようなものが、そこそりと彼の腹にささった。

「どこへ行っちゃったんだろう。しょうがないやつね。——ちよいと、どこへ行っているの。」

おかみが、台どころのほうで、大きな声を出していた。

吾一は返事もしないで、一生懸命に自分の似がお絵を見つめていた。

「おい、捜^{さが}しているようだから、早く行かないと、また、うるさいぞ。」

「へえ。」

今までの習慣で、吾一はつい「へえ。」と言ってしまった。が、これからは、もう「へえ。」なんて卑屈^{III}な返事は、断然やめようと思った。

夕がたのこまごました用をすませると、彼はいつものように、おぜんを持って、二階にあらなければならなかった。不器用な手つきで、足のついたおぜんをささげながら、彼はぎしぎし鳴るはしご段をのぼって行った。

はしご段の途中で、彼はふと、立ちどまった。

いま歩いているのは、こりや一体、だれの足なのだ。

階段をのぼり切ると、吾一は自分の足で、トーンと板のまを踏みしめた。おぜんがゆれて、しるが少しこぼれた。

彼はそのまま、へやの中へ持つて行った。

「おい、小僧。つゆをこぼしちゃだめじゃないか。」

③ 吾一はなんにも言わずに、スタスタと、はしご段をおりてしまった。

(山本有三『路傍の石』より)

〈注釈〉

※1 起きあがり小ぼうし …… おきあがりこぼし。ダルマなどの形をした人形の底におもりをつけて、倒してもすぐ起き

あがるようにしたおもちゃ。

※2 ましやく …… 損得の計算。「ましやくに合わない」とは、割に合わないということ。

※3 加藤清正 …… 安土・桃山時代の武将、豊臣秀吉の家来。

※4 石なお叫ばん …… 『新約聖書』からの引用で、イエス・キリストのことば。思想や言論が抑圧されても、必ず声をあげる者が現れるということ。直前の「The very stones cry out!」は同じ意味の英語。

問1 空欄A～Dに入る語として最も適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

ア べつに

イ さっぱり

ウ ただ

エ さも

問2 二重傍線部Ⅰ～Ⅲの語の本文中での意味として最も適当なものを、それぞれ後のア～エから選んで、記号で答えなさい。

Ⅰ しゃくにさわる

ア 心配になる

イ 感激する

ウ 計算できる

エ 腹が立つ

Ⅱ 目を白くろさせている

ア 悲しんでいる

イ びっくりしている

ウ おびえている

エ 眠そうにしている

Ⅲ 卑屈

ア 自分をいやしめて、相手の気に入るようにふるまうこと。

イ 田舎者のような、洗練されていない言葉を使うこと。

ウ 自分に与えられた仕事を、誠実な態度で丁寧にこなすこと。

エ 相手のことを思いやって、心をこめて親切にふるまうこと。

問3

傍線部①「今の日本画家は、みんなかぜをひいていやがつて」とありますが、「かぜをひく」とはここではどういう意味ですか。最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 熱に浮かされたようなはつきりしない絵をかいているということ。

イ 絵をかくことに疲れ切つて体調を崩してしまっているということ。

ウ 風邪をうつされたかのように次々と富士山などの絵をかくということ。

エ 社会や人に対して訴えかける力を持たない絵をかくということ。

問4

傍線部②「さかなの骨のようなものが、ごそりと彼の腹にささった」とありますが、この時の彼の気持ちとして最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 吾一は、「皮肉を込めてメッセージ性のあるポンチ絵をかいている」と話す黒田がくれた起きあがり小ぼうしの絵を見かえたことで、人生を自分自身の力で生きていないと指摘されたことに気づいて衝撃を受け、これまでの自分をふがいなく思っている。

イ 吾一は、「皮肉を込めてメッセージ性のあるポンチ絵をかいている」と話す黒田がくれた起きあがり小ぼうしの絵を見かえたことで、誰かの助けがないと生きられないということに気づいて衝撃を受け、自分が何の能力もないことに絶望し打ちひしがれている。

ウ 黒田は、「皮肉を込めてメッセージ性のあるポンチ絵をかいている」と自慢げに話したものの、吾一が起きあがり小ぼうしの絵をじつと見かえしている様子を見て、自分がかいてやったダルマのポンチ絵は、うまくメッセージを発していないのではないかと不安な気持ちになっている。

エ 黒田は、「皮肉を込めてメッセージ性のあるポンチ絵をかいている」と自慢げに話したものの、吾一が起きあがり小ぼうしの絵をじつと見かえしている様子を見て、自分がかいてやったダルマのポンチ絵があまりにも嫌味な表現であったために、吾一を深く傷つけたのではないかと後ろめたさを感じている。

問5

傍線部③「吾一はなんにも言わずに、スタスタと、はしご段をおりてしまった」とありますが、なぜですか。その理由として最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 黒田の話と彼のかいたダルマのポンチ絵によって、自分が転んだままのダルマ同様に自分の意志と力で人生を歩んでいないことに気づかされた吾一は、自分の足というものを意識してそのことにすっかり気をとられ、他のことは何もかもどうでもよくなっているから。

イ 黒田の話と彼のかいたダルマのポンチ絵によって、自分が転んだままのダルマ同様に自分の意志と力で人生を歩んでいないことに気づかされた吾一は、卑屈な返事をするのをやめて、声を出さない立派な画家のように、黙って自分の足で生きていこうと決めたから。

ウ 黒田の「時代の主人」という言葉が胸に響いた吾一は、権力や金持ちにこびることなく、自分自身が「主人」となってみたいと強く思ったため、こき使われてばかりで卑屈な返事をしているような自分を見つめ直し、自分の力で立ちあがろう、卑屈な態度はやめようと思ったから。

エ 黒田の「時代の主人」という言葉が胸に響いた吾一は、権力や金持ちにこびることなく、自分自身が「主人」となってみたくて強く思ったため、おぜんの上に汁がこぼれたことをしかられても、これまでのようにすぐにおどおどして謝るのをやめることで自分が「主人」になれると思ったから。

問6 次の会話は、この小説を読んだ後、生徒同士が交わしたものです。これを読んで、空欄 X に入る最も適当なものを、後の選択肢ア～エの中から一つ選んで、記号で答えなさい。

【生徒同士の会話】

生徒A この『路傍の石』って作品はかなり古い小説だけど、読んでみてどうだった？

生徒B わからない言葉もあったけれど、名前があるのに「小僧」としか呼んでもらえず、おかみたちにひどい扱いを受けながら働いている吾一の気持ちが伝わってきて、読んでいて辛かったよ。

生徒C でも、ポンチ絵をきっかけに、吾一が「学校に通って勉強したい、一人前になりたい」って前向きな気持ちになっていくところがよかったな。「自分も頑張ろう」って思った。

生徒B あ、その「ポンチ絵」って言葉がよくわからなかったんだよね。だけど、要するにマンガのことなんだね。

生徒D この小説が書かれたのは戦前でしょ？ 今言うなら、新聞に載っているような一コマ漫画が近いんじゃないかな。一種の風刺画よ。風刺画っていうのは、人間や社会、権力者なんかを面白おかしく描くことで、遠回しにそれらを批判する絵のこと。歴史的にも大きな役割を果たしてきたのよ。

生徒A 実は今日、大正時代に描かれたポンチ絵を持ってきたんだ（資料参照）。この絵が描かれたのは大正元年なんだけど、調べてみるとこの時代は近代化が急激に進んで、社会に出て働く「職業婦人」が現れた時期なんだ。それから、着物じゃなくて洋服を着る人が増えたのもこの時期だね。

生徒C 昔のままの「女は家にいるべきだ」って考える人たちにとっては、洋服を着て社会に出て働く女性は苦々しい存在だったんでしょうね。

生徒A それからこの時代は、米価が暴騰^{ぼうとう}、つまりお米の値段が異常に高くなって、庶民の生活はかなり苦しくなっていたらしい。さて、このような時代背景を踏まえると、この絵にどんな意味が込められているかわかるかな？

生徒B ちょっと待って。その前に、この女性の頭に載っているゴチャゴチャしているのは何？

生徒A 目のつけどころが鋭いね。これは、大砲や砲弾、刃物のついた銃剣などの軍事兵器だよ。

生徒D じゃあ、このポンチ絵に込められた意味を考えてみるね。

X

生徒B なるほど。そんな風に考えればいいのか。絵に込められた意味を考えるのって面白いなあ。

生徒A 社会問題や政治問題をビジュアルでわかりやすく伝えることができるのがポンチ絵、つまり風刺画の魅力なんだ。世論を形成するためには、結構有効な手段だったと思うよ。

（選択肢）

ア 鏡に向かっておしゃれをしている女性の帽子に、軍事兵器がたくさん載っている……。当時、米価が暴騰して庶民の生活が苦しかったということが大きなヒントね。女性の腕を引っ張っている手は、軍備の増強をやめろということじゃない？ 庶民の生活の苦しさを考えず、軍備増強に力を入れる政府への批判が込められているんだと思う。

イ 鏡に向かっておしゃれをしている女性の帽子に、軍事兵器がたくさん載っている……。当時は日露戦争が終わった後で、日本は軍備増強に力を入れていたから、兵器を増やそうとしている政府を応援する世論を反映しているのよ。庶民の生活が苦しいからこそ、国をより強く、豊かにする政治でなければならぬという主張が込められているんだと思う。

ウ 鏡に向かっておしゃれをしている女性は、よく見ると帽子の飾りにしている軍事兵器を自分で外そうとしているのよ。つまりこれは、これからはもう戦争をしないように、軍備を縮小してほしいと希望する世論が反映されているのね。女性の腕をつかむ手は、庶民のために軍事費を生活向上に回そうとする政治家を応援する意味が込められていると思う。

エ 女性の帽子には普通だったら羽飾りがついているものだけど、この絵では羽飾りの代わりに軍事兵器が載せられているね。これは自立した女性のたくましさを表しているのよ。これから参加するパーティーに男性を引っ張って行くようにしているこの絵は、洋装で政治にも参加するような新しい時代を象徴する女性への賛美が込められているんじゃないかな。

【資料】



四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

比叡^{ひえい}山の延暦寺^{えんりやうじ}に、仙命上人^{せんめいじやうにん}という尊い僧がいた。後の文章は、この仙命上人の人物像を紹介したものである。

※1 この聖^{ひじり}、① さらにみづから朝夕のことを知らず。一人使ひける小法師、※2 山の坊ごとに一度廻^{めぐ}りて、一日の※3 かれひを

乞ふて、^A 養ひけるほかには、何も人の施^せを受けざりけり。(中略)
もらって 他人からの援助を受けなかった。

I おほかた、人の乞ふもの、さらに一つ惜しむことなかりけり。板敷の板を欲しがる人のありければ、^{緑側の板} 我が坊の板を二、三枚は
自分の宿坊

なして取らせたりけるあひだに、※4 東塔の鎌倉に住む覚尊^{かくそん}聖人得意にて、夜暗き時、^B 来たりけるが、板敷の板のなきことを知
期間に、 東塔の鎌倉という所に 親しくして

らずして、落ち入るあひだに、「あな、悲し」といひけるを聞きて、「② 御坊は不覺の人かな。もし、さて、やがて死なんことも、
落ちるときに ああ、痛い あなたは愚かな人だなあ。 そうしてそのまま

かたかるべき身かは。あな、悲しといふ終わりの言やはあるべき。南無阿弥陀仏とこそ申さめ」なんどいひけり。
あるかもしれない体なのに。 遺言があるだろうか、いやない。 南無阿弥陀仏と申し上げなさい。

この仙命上人、かの覚尊が住む鎌倉へ行きたりけるに、とみのことありて、^C 客人をおきながら、きとほかへ行くとして、^D 急ぎ
急用ができて 急いで

出づる人の、さらに内へ帰り入つて、やや⁽¹⁾ 久しくものをしたためれば、あやしうて、出でて後^{のち}、跡を見給ふに、⁽²⁾ よろづの物
もう一度 何かをしていたので、 不審に思つて

にことごとく封を付けた。この聖思ふやう、「いと⁽³⁾ 心悪きしわざかな。よも歩き^{あり}のたびに、かくしもしたためじ。我を疑ふ心
すべて 封印をしていた。 まさか外出のたびに こんなことはしないだろう。

にこそ。はや帰れかし。このことを恥ぢしめん」といふ。
早く帰ってこい、 問い詰めてやろう。

かく思ひたるほどに、帰り来たり。思ひII まうけたることなれば、^④ 見つくるや遅しと、このことをいふ。覚尊のいはく、常

考えて準備していたことなので

にかくしたたむるにあらず。また、人の物を取るを惜しむにもあらず。されども、御坊のおはすれば、かく取り収め侍るなり。そ

人が自分の物を盗むのを惜しむのではない。

あなたがいらつしやるから、このようにきちんとしたのです。

のゆるは、もしこれらいささかも失せたることあらば、^{※5} 凡夫なれば、おのづから御坊を疑ひ（なぐさ）奉る心のあらんことの、いみじう

少しでも

とても

罪障（ざいしょう）ありぬべく覚えて、わが心の疑はしさになん。何ばかりの物をかは惜しみ侍らん^⑤ とぞいひける。

罪深いことだと

思つて、

自分の心が信用できないからです。

どれほどの物を惜しく思うことがあるでしょうか。

かくて、鎌倉の聖、さきに隠れぬと聞きて、「必ず^⑥ 往生しぬらん。物に封付けしほどの、心の匠（たぐみ）なれば。」とぞ、仙命上人はい

ひける。

このうち、
亡くなった

〈注釈〉

（『発心集・卷第二』「五 仙命上人の事」より）

- ※1 この聖 …… 仙命上人のこと。
- ※2 山の坊 …… 比叡山に点在する、僧侶の宿泊施設。宿坊。
- ※3 かれひ …… 飯を乾燥させた携帯用の食料。「かれいひ」ともいう。
- ※4 東塔 …… 延暦寺の、三つに分けられた区域の一つ。信仰の中心となる根本中堂がある。
- ※5 凡夫 …… 悟りを開いていない一般人の人。

問1 波線部A「養ひける」B「来たり」の主語として適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

- ア 仙命上人
- イ 小法師
- ウ 板を欲しがる人
- エ 覚尊聖人
- オ 阿弥陀仏

問2 波線部C「客人」D「急ぎ出づる人」とは誰のことですか。次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

ア 仙命上人 イ 小法師 ウ 板を欲しがる人 エ 覚尊聖人 オ 阿弥陀仏

問3 二重傍線部Ⅰ「おほかた」Ⅱ「まうけ」を現代仮名遣いで記すとどうなりますか。最も適当なものをそれぞれ後のア～オから選んで、記号で答えなさい。

Ⅰ「おほかた」

ア あうかた イ おおかた ウ おうかた エ ほほかた オ あおかた

Ⅱ「まうけ」

ア まあけ イ まふけ ウ もうけ エ もふけ オ もおけ

問4 太線部(1)「久しく」(2)「よろづの」について、本文中の意味として最も適当なものをそれぞれ後のア～エから選んで、記号で答えなさい。

(1) 久しく

ア 大あわてで イ 落ち着いて ウ 時間をかけて エ 一生懸命に

(2) よろづの

ア いろいろな イ 大切な ウ 目についた エ 高級な

問5

傍線部①「さらにみづから朝夕のことを知らず」③「心悪きしわざかな」④「見つくるや遅しと」の現代語訳として最も適当なものをそれぞれ後のア～エから選んで、記号で答えなさい。

①「さらにみづから朝夕のことを知らず」

ア 加えてまったく眠らず修行して、自然と朝になったことが分からない
イ 朝晩に食事をとるということを、自分ではまったく気にかけない
ウ 朝から晩まで遊びほうけて、自分から進んで修行をすることはまったくない
エ 小法師が代わってくれるので、自然と朝晩の修行の方法を忘れていった

③「心悪きしわざかな」

ア 悪人のしわざだろうか
イ 用心深いことだなあ
ウ 都合が悪いのだろうか
エ 意地の悪いやり方だなあ

④「見つくるや遅しと」

ア ゆっくりと
イ すぐに
ウ 思い出したように
エ 少し遅れて

問6 傍線部②「御坊は不覚の人かな」とありますが、なぜ「不覚（愚か）」のですか。理由として最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 覚尊上人は、板敷きの板がはずしてあることは知っていたはずなのに注意もせず、まんまと穴に落ちてしまったから。
イ 覚尊上人は、自分を極楽へ導いてくださる阿弥陀仏を信仰せず、親の遺言だからといって他の仏を信仰していたから。
ウ 覚尊上人は、修行を積んでいるにも関わらず阿弥陀仏への信仰を忘れ、命の危険に際して体の痛みだけを訴えたから。
エ 覚尊上人は、大して高くもない所から落ちただけなのに大げさに騒ぎ立てて、世間の注目を浴びようとしていたから。

問7 傍線部⑤「とぞいひける」とありますが、言った内容はどこからですか。最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア かく思ひたるほどに　　イ 常にかく　　ウ もしこれらいささかも　　エ 何ばかりの

問8 傍線部⑥「往生しぬらん」とありますが、仙命上人はなぜそう考えたのですか。理由として最も適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 板敷きの穴に落ちるときでさえ阿弥陀仏への信仰心を忘れない、信心深い人だから。
イ 客を疑う心を抑えるため、自分のものすべてに封をするほどの工夫がある人だから。
ウ 他人にはものをねだらず、人から求められると惜しみなく与える慈悲深い人だから。
エ 自分だけでなく客人さえも疑い、不正行為を決して許さない正義感の強い人だから。

問9

この『発心集』という作品は、鎌倉時代に鴨長明によって書かれた仏教説話集です。同じく鴨長明が書いた随筆作品を次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 源氏物語

イ 枕草子

ウ 方丈記

エ 徒然草

オ 今昔物語集

国語解答用紙

一

①
②
③
④
⑤

二

問 1 a
b
c
d
問 2 I
II

問 3 X
Y
Z
問 4
問 5

問 6
問 7
問 8
問 9
問10

三

問 1 A
B
C
D

問 2 I
II
III
問 3

問 4
問 5
問 6

四

問 1 A
B
問 2 C
D
問 3 I
II

問 4 (1)
(2)
問 5 ①
③
④

問 6
問 7
問 8
問 9

*

--

受験番号

一

--

二

--

三

--

*

--

*

四

--

*